

ハイライトよねやま 69

(財)ロータリー米山記念奨学会

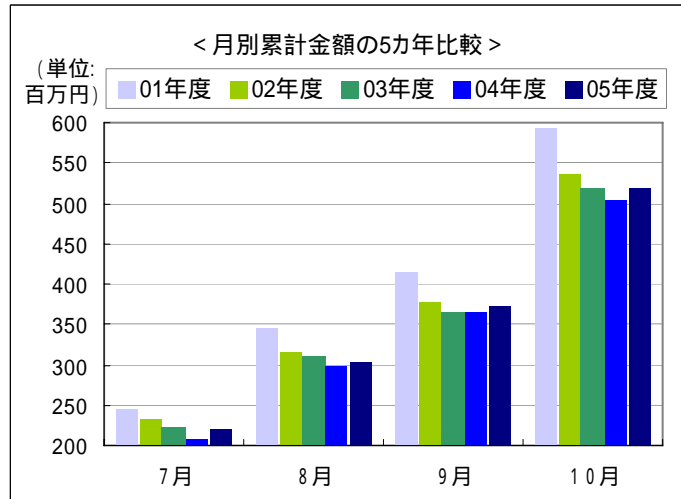
2005年11月11日発行

1. 寄付金速報 ~ 米山月間の嬉しいご報告

10月までの寄付金は前年同期と比べ2.85%増、約1千4百万円の増加でした。普通寄付金が0.2%減、特別寄付金が5.3%増です。

好調の要因は、数名から100万円のご寄付をいただいたこと、また12クラブからの創立記念寄付が合計で約520万円あったことなどが考えられます。なお、4カ月連続で前年度を上回ったのは1995年以来、10年ぶりの快挙です。

上期の残り2カ月も引き続きご支援賜りますよう、お願い申し上げます。



2. 制度改編後初めての募集！ ~ 2006学年度は全国から1,427名が応募

10月15日で締め切られた来年度の米山奨学金に対し、全国309校から1,427名の応募がありました。うち、新しい「地区奨励奨学金」への応募は4校9名でした。

国・地域別では、中国が58.3% (前年度比 2.5%)、韓国12.8% (同 0.1%)、台湾6.9% (同 0.7%)、その他22.0% (同 3.1%)となり、申し込み段階では中国籍の割合がやや減少し、その他の国・地域が2割を越えました。課程別では、博士課程が33.1% (同 2.5%)、修士課程56.3% (同 2.0%)、学部課程9.9% (同 0.2%)です。

なお、今回指定校となった402校のうち、93校は推薦者を出していません。応募資格のある留学生がいない大学を指定校にしているケースや、大学側が推薦者の国籍割合を考慮した影響があるものと思われます。こうしたことを防ぐためにも、地区が指定校・推薦枠を決定する前に、大学とより密なコンタクトを図ることが望まれます。

来年1月中旬~2月上旬にかけて、地区選考委員会による書類選考・面接試験が実施され、3月末には新規採用者623名が決定されます。

3. 異文化理解ケーススタディ ~ 宗教上のタブー

イスラム教徒が豚肉や酒類を摂取しないことは広く知られています。しかし“郷に入らば郷に従え”だからと、これらを強要する日本人の姿を目の当たりにしたら、どうしますか？

多くの日本人は宗教への関心が薄く、信仰上の習慣やタブーが、当人にとってどれほど重要かを理解しづらいのかも知れません。実際、こうした認識の違いや理解不足から、例会・会合における留学生の食事についてトラブルが生じています。

国際交流・異文化理解の基本は、言うまでもなく互いの文化や習慣を理解し、尊重することです。米山カウンセラーをはじめ、ロータリアンの皆さまは、冗談でも特定の宗教をもつ留学生にタブーを強要することのないよう、ご配慮ください。



当会発行の『カウンセラーハンドブック』p.14-15 “異文化への認識に関する留意点”もご参照ください

4. 米山奨学会初の女性評議員 渡辺喜代美氏（第 2500 地区）



今年 8 月に開催された理事会において、米山奨学会が財団法人として設立されて以来、初めての女性評議員が誕生しました。第 2500 地区（北海道東部）の渡辺喜代美氏（帯広 RC）です。

渡辺氏は帯広 RC 初の女性会員として平成 13 年に入会。ある時、米山奨学生のカウンセラーとして親身に接する姿が、同地区の北川米山奨学委員長の目に留まります。以来、米山カウンセラー研修会のリーダーや、クラブ協議会・米山セミナーのサブリーダーなどを経て、今年度は地区米山奨学委員会の小委員長に任命されました。その仕事ぶりは「相手を立てる謙虚さ、そして関係者への連絡など細かい配慮がある」（北川委員長）と、厚い信頼を受けています。

これまで第 2500 地区では、大学が所在するごく限られた地域以外は、米山奨学事業への関心が低い傾向にありました。しかし北川委員長が就任して以来、地区大会で奨学生に母国を紹介してもらうプログラムや、子クラブ・ホームステイといった独自の企画を実現し、できるだけ多くのロータリアンが直接奨学生に触れ合う努力が重ねられています。

こうした活動へ共に関わってきた渡辺氏は「クラブから卓話の要望が増え、新しい交流が生まれることによって活気も出てきました。寄付にもつながっている」と、手応えを感じています。

渡辺氏の今後について、北川委員長は「女性の目から見た取り組み、そして後継者育成をお願いしたい」と大きな期待を寄せています。

5. 地区大会における米山奨学生・学友の活躍【1】 ～ 母国のお茶サービスが大好評

10 月に開催された第 2780 地区（横浜市・川崎市以外の神奈川県）の地区大会では、第 2780 地区の学友会が、昨年ひきつづいて「お茶サービス」を実施しました。これは、色彩豊かな民族衣装をまとった米山奨学生と学友が、母国のタイや韓国、台湾、カンボジアから取り寄せた珍しいお茶を、会議の合間に振る舞うものです。会議のひとつ、国際色豊かな温かいサービスに、ロータリアンからの評判も上々でした。



第 2780 地区学友会は、湘南海岸のクリーンアップキャンペーンをはじめ、小・中学校の総合学習における講師としての活躍や、地元の国際フェスティバルへの参加、万国料理大会を開催してロータリアンを招待するなど、様々な企画に溢れています。しかしこうした毎年恒例のサービスが定着すれば、いっそう大きなアピールとなるでしょう。



当会監事の谷内宏文氏著

『点描 米山梅吉 日本のロータリークラブと信託業の創始者』

購入希望者は、書店あるいは新風舎 (TEL: 03-3746-4648) まで。

谷内 宏文 著 / 新風舎文庫 / 890 円



米山奨学会事務局は、新しい事務所へ移転しました。電話・FAX・メールアドレス・ホームページアドレスは変わりません。

(財)ロータリー米山記念奨学会 編集担当: 野津・大庭
〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 3F
Tel: 03-3434-8681 Fax: 03-3578-8281
E-mail: highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL: http://www.rotary-yoneyama.or.jp/